（行政視察・政務活動・議員研修 ）報告書

令和６年８月７日

白石市議会議長　松　野　久　郎　　殿

議員氏名　四　竈　英　夫

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	令和６年７月２４日（水）　～　７月２５日（木）
調査・研修先	長野県須坂市、大町市
調査事項 （研修事項）	①須坂市インターチェンジ周辺開発について ②須坂市公共交通計画及び公共交通施策について ③大町市鳥獣対策について
対応者・講師等	須坂市　浅井洋子議長、まちづくり推進課 神林係長、山下係長 議会事務局川口次長、山田主査 大町市　二條孝夫議長、農林水産課 傳刀主査、平林調査員 議会事務局西澤係長　高橋氏
概　　要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、 政策提言等）	★ 須坂市　人口４９，４６０人 面積１４９．８４m2 ① 白石市において現在進行中の(仮称)白石中央スマートインターチェンジ、道の駅、工業団地が完成後、本市においてどのような経済効果や人口増加などが見込まれるか、また住宅地開発、移住者支援、子育て支援などにどのように取組んでいるかについての研修。 ② 須坂市の面積は 149.84 平方ｋｍ（286.48）人口 49,460 人（30,821）・() は白石市。白石市の半分の面積に５万人の人口があり行政効率が良い。また、りんご・ぶどうなど全国有数の果樹産地でもある。 ③「須坂長野東インターチェンジ周辺」開発事業は、開発面積 48.08ha で、物流産業用地(10.44)観光集客用地(22.47)ものづくり産業１次用地(8.56)ものづくり産業２次用地(6.61)の４区画に分かれている。 ④平成 27 年度に㈱長工よりインターチェンジ周辺に大型商業施設開発について説明があった。それを受けて市として大型商業施設建設を支援して行くことを市議会において表明。

白石市議会 -6.8.-7 受付

	⑤ さらに平成 30 年度に地権者説明会において、95.1%の協力的意向が得られた。 ⑥ 令和元年度地域経済牽引事業計画が県承認となる。 ⑦ 令和３年度観光集客施設、ものづくり産業施設の農用地転用開発行為許可がおりる。 ⑧ 同年度さらに観光集客の立地企業(イオンモール、アークランドサカモト、ルートインホテル)を公表。 ⑨ 令和４年度、須坂市景観計画、屋外広告物条例施行。物流関連事業用地造成完了。 ⑩ 令和５年度、ものづくり２次用地造成工事完了。ルートインホテル着工、イオンモール須坂着工。 ⑪ 令和６年度、新アクセス道路開通。アークラインズ着工 ⑫ ㈱オカムラ　令和５年 11 月着工・令和７年１月操業開始予定 ⑬ ㈱内田鐵工所　令和５年９月着工・令和６年秋操業開始予定 ⑭ ㈱鈴木　令和４年操業開始 ⑮ オリオン㈱　令和６年３月工事完了・令和６年稼動予定
基本計画	・「長野地域」は製造業などのものづくり産業を中心に位置づけ「須坂地域」は観光・文化・まちづくり産業分野と、交通インフラを活用した物流関連産業分野として差別化 ・大型商業施設の計画であることから近隣の市町村の理解を求めるため計画の説明を行ったが反対等はなかった。 ・ 観光集客施設は農地転用、開発行為の許可や土地購入の確実性が担保出来ないなどの理由で事業計画に苦慮した面もあった。
考　察	・ インター須坂産業団地計画は、上信越自動車道、国道 403 号線新設アクセス道路などに囲まれた 48,08ｈａの土地に観光集客用地、物流産業用地、ものづくり産業１次２次用地を区画して行われているもので、既に建設が完了し操業している企業、建設が進行中の企業、間もなく着工予定の企業など、進捗率 95%と順調に計画が進行している。 地権者の同意や近隣市町理解もあり成功した事例と思われる。 （仮称）白石中央スマートインターチェンジ事業も事業が進行中であり、工業団地・道の駅・スポーツ関連事業など特徴のある計画であることから、地元産業の発展と定住人口の増加近隣自治体への好影響が図られるものと期待される。

	ついては、先進事例の須坂市の取り組みを参考にする事も有効なことだと思われる。
公共交通計画及び公共交通施策について	★須坂市の公共交通の概況 ・鉄道(長野電鉄長野線)長野駅方面、信州中野・湯田田中方面 ・長電バス（民間バス）須坂屋島線、山田温泉線、屋代須坂線 ３路線とも国と沿線市町村から支援を受けている。 ・ すざか市民バス (須坂駅を起点に須坂市を４つの路線が運行しネットワークを形成している 市の中心部では 30 分に１本運行し年間 94,163 人利用(R5) ・すざか乗合タクシー(デマンド型のタクシーで予約者が乗合い、目的の停留所で降車する ・タクシー(つばめ長電・北信)２社が運行 (1)すざか乗合タクシー・2009 年 10 月開始、利用者の要望でスーパー前や病院前など停留所を増やした (2)すざか市民バス(市の財政負担・2023 年) ・すざか市民バス運行経費：約 5,600 万円 ・すざか乗合タクシー：約 400 万円 ・2021 年度から～交通事業者事業継続支援金(国の臨時交付金)を活用し、バス・タクシー・代行事業者に支援金を交付 (3)すざか乗合タクシー(市民バスの利用者が平均 3 人未満と少なく持続的な移動の確保が困難となった) 一定の公共交通需要が見込めるバス路線を「交通軸路線」として位置づけ分かりやすい運行経路とダイヤを設定し公共交通活性化の主軸として位置づけた。 公共交通需要が小さい地域ではデマンド型交通(DRT)をはじめとした小規模需要に適性のある乗合公共交通の導入を図ることで持続可能で決め細やかな交通サービスが実現できる。
考　　察	白石市では市民の足として市民バスきゃっするくんを運行している。郡部８路線と白石市中心部まちなか循環便を運行して利便を提供しているが利用率が上がらない。小原地区では「おらいのくるま」として準デマンド型の個別対応を試行しているが、様々な問題もある。本市の場合地域が広範囲の上郡部の人口が少ない。路線はあっても利用が少ないというジレンマがある。過疎化高齢化が進行する中で足の確保は大きな課題となってい

	る。こうした現状でどのような施策が取れるのか今後の研究課題と思う。
大町市の鳥獣対策について	★大町市　人口　２５，４９５人 　　　　　面積　５６５，１５ｋｍ2 ・鳥獣対策 ①追払い、捕獲＋生態調査(大型檻・けものおと・電気柵) ②生態調査（ＧＰＳ発信器・ビーコン発信器） 　　目的に合わせて発信器を活用 　　ＧＰＳ発信器は２時間ごとに群れの位置がわかる 　　行動パターンの予測ができる 　　けものおと・発信器だけではわからない情報を収集 ③追払い(職員や猟友会、協力員、住民)で行う ④　〃　モンキードッグ(当初２０頭登録あったが８頭に減少) ⑤　〃　発信器、電動ガン、ロケット花火は大野市より貸与、支給 ⑥捕獲　職員、猟友会合同で実施　大型・小型檻・銃器使用 ⑦　〃　大型捕獲檻　Ｒ３年度　まるみえホカクン２基使用 ⑧　〃　小型捕獲檻(200 万円)国の補助あり ⑨エサの確保、リンゴ・さつまいもなどが適している 　量は多く根気良く餌付けする事が大切 　設置期間は１週間～２ヶ月、２ヶ月でダメなら移設 ⑩侵入防止　電気柵等の設置(国はほぼ全額を補助、市は１／2 の補助で上限は 15 万円) ⑪環境整備　放置野菜や果物の撤去 ⑫群れの頭数の把握と行動パターンの把握が大事 ⑬群れの継続的な管理を行い頭数を増やさない ⑭近隣市町村と情報共有を行い発信器で得られた生態調査の結果を有効に収集共有する ・鳥獣害対策を行っていることによって、農家からは農作物を作れるようになったので継続して欲しい ・GPS により生態調査の分析をする事ができ有効だ。そのデータをもとに大型檻の設置箇所の選定にも活用している
考　　察	白石市も同じ悩みを抱えているので大変有効な視察研修だった。しかし、規模や範囲が違うため、同様の対策を取ることは難しい印象だった。先進事例を参考に可能なものは積極的に取り入れ少

	しでも被害の減少を図る。また、農家と行政が話し合うなど有効な対策の模索を行うことも必要だと思われる。